

宮井家文書（印南町島田）

令和三年十二月、江戸時代に日高郡南谷組島田村庄屋を勤めていた宮井家に伝えられていた文書一三点が文書館に寄贈されました。

伝承によると、宮井家は中世に島田村に土着し、江戸時代初頭の当主庄左衛門は一時紀州藩主浅野家の家臣となりますが、故あって浪人となり、元和元年（一六一五）の大坂夏の陣で討ち死にしました。

庄左衛門のあと武右衛門・武太夫・武八郎…と続き、徳川家が藩主となった紀州本藩領島田村庄屋を勤めました。

宮井家文書には、①同家の由緒に関する記録のほか、②島田村と隣村の田辺領切目組西野地村（現印南町西ノ地）との境目争いや、村民に対して藩から認められた漁業上の特権に関する記録などがあります。後者は、村の権利の証拠として、大事に伝えられてきたものでしょう。

村民に与えられた漁業特権については、『和歌山県立文書館紀要第十九号』で採り上げましたので、詳しくはこちらをご覧ください。

『和歌山県立文書館紀要第十九号』は、
御自由にお取りください。

